西池尻町（にしいけじりちょう）

益田池の西に池じり村

鎌倉後期・弘安八（一二八五）年の古文書（春日神社文書）に「大和国高市郡増田池尻」とあり、時代が下った室町前期・至徳三（一三八六）年の文書（一乗院文書）にも地名「益田」がみえています。また、大和（奈良）の古跡を紹介した江戸時代の「和州旧跡幽考」には、いまも久米町にある久米寺のそばに「益田池」の跡が残り、池跡の西に「池じり村」のあることも書かれています。

古く「増田池」といわれた池が「益田池」と呼び変えられ、池の西に沿っていた集落も「池尻村」と呼ばれたのでしょう。

江戸時代の池尻村が明治二二年に白橿村の大字となり昭和を迎えます。昭和三年に畝傍町の大字となったあと同三一年に橿原市に編入されて、同年一〇月に「橿原市西池尻町」となっています。

池尻村だった明治一五年ごろは、戸数三七戸・人口二〇四人・牛五頭を飼う農村（町村誌集）で、米・麦・ぶどう・綿・菜種などが主な産物（農産物取調表）でした。町の東部に鎮座する八幡神社の東北に「元陣屋敷」の小字名が残っています。江戸時代に当地一帯を領有した旗本・神保氏の陣屋が当時、ここにあったそうです。